

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
1年	○ひらがなやカタカナ、拗音や促音が混ざった言葉や、「は・を・へ」の助詞を正確に書けるよう指導したが、まだ十分定着していない。	○文字なぞりや視写、作文を繰り返し行うなかで、正しい文字の書き方や言葉のきまりを指導する。	(補) ひらがなやカタカナ、拗音や促音が混ざった言葉や、「は・を・へ」の助詞を使った文のワークシートを用いて指導する。教科書教材を活用し、話すこと、聞くことに対する興味、関心を高める。 (発) 絵日記等を継続して行い、書く力の定着を図る。読んだ本の内容を伝えたり、朝の会でスピーチをしたりするなどの機会をつくり、よい話し方や聞き方への意識を高める。
2年	○かぎの使い方、カタカナや新出漢字を文や文章の中で使うことについて指導しているが、まだ十分に定着していない。 ○語彙が少ない。	○短作文を繰り返し行う中で、正しい使い方を確認し、作文の中で正しく使えるよう指導する。 ○学習した漢字を確認し、文作りの中で使用できるように指導していく。 ○本の紹介や読み聞かせなども活用して、新しい言葉と出合わせるようにする。	(補) 日常的にノートや作文、週末日記等で添削指導を行ったり、繰り返しカタカナや漢字練習をさせたりする。 (発) 学習した漢字でも特別な使い方の漢字や似ている形の漢字などを取り上げ、興味を広げる。
3年	○文章の内容の中心や、場面の様子がよく理解できるように指導を継続しているが、課題を明確にして読み取ったり、主人公の行動を分析して記述をまとめたりすることは十分定着していない。 ○新出漢字の読み方や使い方、その漢字を使って文を作ることなどを継続して指導しているが、十分に定着していない。	○叙述の中心となる事項や、場面の様子、登場人物の心情について個人で考える時間をしっかり確保し、全体共有を行うようにする。  ○練習や確かめの小テストを繰り返し行ったり、漢字を使った文作りを意図的に入れたりと指導する。	(補) 文章の内容の理解を深められるよう、サイドラインの引き方や書き込みのポイントを指導し、話合いや文章を書く際に活用することを促す。 (発) 学習のゴールをしっかりと設定し、付いた力を使い、発展学習へつなげるようにする。 (発) 習っていない漢字でも辞書を活用して読み方や意味などを調べ、言葉に対して興味を広げる。
4年	○文章を書く時、主語述語を意識したり、表現を工夫したりして感想を書くことが定着していない。 ○新出漢字の使い方、既習漢字を使って文を作ることなどを継続して指導しているが、正しい活用において十分に定着していない。	○様々な言葉での表現方法を指導し、短文で主語述語を確認させながら、長文へ移行する指導をする。 ○漢字練習や確かめのテストを繰り返し行い、家庭学習において漢字を使った文作りを継続して指導する。	(補) 使用した言葉を他の言葉で表現したり、別の言葉を紹介したりしながら、気持ちや考えを表現する方法を指導し、使用言語を増やす指導を行う。繰り返しドリルやテストを行い、漢字を定着させる。 (発) 自分の考えや感想を発表し合うことにより、多くの考えや言葉を出し合って学び合いの場とする。辞書活用の習慣化を通し、漢字や意味などを自主的に調べ、言葉に対する興味を広げる。
5年	○目的に応じて、要旨を捉え自分の考えを明確にしたり、書いたりする指導が不十分で、課題としている。 ○新出漢字の読み方や使い方、その漢字を使って文を作ることなどを指導しているが、定着していない。	○目的に応じて、本や文章を比べて読んだり、効果的な読み方を工夫したりして指導し、書いて振り返るようにする。 ○繰り返し新出漢字の学習を行うようにし、漢字を使った文作りを指導する。	(補) ノートを書く、メモをとるなどの習慣を継続して指導し、内容の理解を向上させる。また、漢字小テストの時間を作り学習の定着を図る。 (発) 日頃から読書に限らず、新聞や雑誌、パンフレット、インターネットのホームページなどから情報を得て、様々な資料が活用できるよう工夫する。感想・まとめを書く時間を確保する。

6年	<p>○新出漢字などを覚えても、その漢字を実際に使いこなすことが十分にできていない。</p> <p>○自分の考えをまとめ、聞く人に分かりやすく工夫して発表する場面の指導が不十分である。</p> <p>○経験したことや考えたことをまとめる時、表現を工夫したり推敲したりしながら作文を書かせる場面が少ない。</p>	<p>○学習した漢字は、作文だけでなくノートやワークシートなど他教科でも日常的に使うように指導する。</p> <p>○グループの中や全体の前で発表する場면을意図的に設けるようにし、その場でよりよい話し方を指導する。</p> <p>○年間に数回程度、表現に重点をおいた作文を書かせる計画を立て、推敲することによってよりよい作文に仕上げようとする。</p>	<p>(補) 漢字練習や小テストを継続的に行い、定着を図る。</p> <p>(補) 4～5人の少人数での話合いの機会を多くとり、発言・発表に慣れさせる。</p> <p>(発) 発表会、討論会などの発表の場を多くして、人の話を意識して聞くような活動を取り入れていく。</p> <p>(発) 「ねりまの子ら」「新聞記事」などを随時紹介し、よい表現を意識化し、自分の作文に取り入れるようにする。</p>
----	---	--	--

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な教材や体験的な活動を中心に導入の工夫を行い、児童が興味をもって学習に取り組めるように工夫をしていく。</li> <li>○学習課題に対する予想を行い、予想からを基に課題を追究できるようにする。</li> <li>○地図や写真などの資料から、必要な情報を読み取る技能について丁寧に指導しているが読み取る力の個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の中でねらいに即しためあてを基に、課題をもち、解決に向け学習を深めていく経験を多く得られるように、より見通しをもった単元計画を行う。</li> <li>○見学が困難な今年度の学習の進め方を吟味する。今後活用できるようにノート指導を十分に行い習得を図る。</li> <li>○初めての社会科の学習のため資料を読み取る際のポイントを示しながら学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(補)用語、資料の見方などが一人一人に身に付いているか、ノートやワークシート等を確認し、確実な理解を図る。</li> <li>(補)地図や地図記号、学習したことをまとめたものなどを身近な場所に掲示する。</li> <li>(発)課題を追究する際の児童同士の情報交流や、学習の成果を発表するような機会を設定する。</li> <li>(発)地域や社会の変化に対応した新しい資料を教材化していく。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○興味関心がもてるような導入を工夫することで意欲的に学習に取り組めるようにしている。自分の生活と照らし合わせながらまとめていくことは課題である。</li> <li>○図やグラフ、写真などの資料を適切に活用したり、表現したりする指導が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器などを活用し、視点を意識し資料から分かることや見方を指導する。 (「比較する」「合わせる」「つなげる」)</li> <li>○自分たちの地域に合わせた単元計画をもとに、一人一人に明確な課題をもたせ、課題解決に向けた教材研究をする。</li> <li>○学習のまとめを多様な方法でできるようにモデルを示しながら取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(補)資料活用および資料作成の技能が身に付いているか、ノートやワークシート等で確認し、理解を図る。</li> <li>(発)自分たちの地域や生活と深く関わりがあることを考えて学習できるよう教材の作成を行う。</li> <li>(発)学習成果を日常生活に生かせるようにする。</li> <li>(発)児童の経験を把握し、その経験を生かして学習できるような授業を構成する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が強く興味をもつような導入資料を用意し、疑問や知的好奇心が持続、発展する授業をすることが課題である。</li> <li>○学習対象が世界に広がり、地図や地球儀の読み取りは、理解に個人差が大きい。</li> <li>○絵や写真などの資料から何が読み取れるのか、資料の見方の指導が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT機器や掲示物を使用して、課題に適した中心となる資料(特に写真、視聴覚資料)を準備する。</li> <li>○学年で教材研究をし、教材を共有化していく。</li> <li>○実物や体験的な学習を充実させていく。</li> <li>○作成、収集した資料の保管場所を明確にし、次年度以降も使用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(補)地図やグラフなどの資料の見方を丁寧に指導する。</li> <li>(補)視聴覚教材や具体物などを準備したり、ゲストティーチャーの話の聞いたりすることで興味をもって学習できるようにする。</li> <li>(発)児童の経験を把握し、学習したことをまとめる作業として、ノートの記録、白地図や新聞などを工夫し学習の定着を図る。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史に関する既存の知識や社会科的な用語についての知識の差が大きい。特に、歴史に関係した言葉を正しく理解させることが課題である。</li> <li>○絵や写真などの資料から何が読み取れるのか、資料の見方や活用の仕方が不十分である。</li> <li>○ノートの取り方に個人差があり、課題からまとめまでの流れが分かるノート指導が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の歴史に興味をもたせるために、疑問や関心をもたせるような資料を準備する。</li> <li>○じっくり資料を読み取る時間を確保し、分かったこと話したり、読み取ったことを確かめたりするようにする。</li> <li>○視聴覚教材などの資料を充実させていく。</li> <li>○「めあて」から「まとめ」までのノートの取り方のモデルを提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(補)用語、資料の見方などが一人一人に身に付いているかをノートやワークシートなどで確認する。</li> <li>(発)学習したことをまとめ、さらに興味関心をもって調べる作業として、社会科新聞を作成させたり、調べたことを発表させたりして、学習の定着を図る。</li> <li>(発)社会の変化に対応できるように新しい資料を準備する。</li> </ul>



学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○20までの数の計算を正確に速く行うようにする指導時間があまり確保されていないため、定着が難しかった。</li> <li>○「ちがいはいくつ」で、求差の場面を減法の式に表し、結果を計算で求めることに困難を感じる児童がいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○操作や活動を多く取り入れた指導を行い、指導時間を確保する。</li> <li>○同じ内容の問題でも数値などを変えて、具体的な場面、半具体物による操作場面や数量を抽象的に捉える場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(補) ブロックを使い、算数的活動を取り入れたゲームなどで楽しく習熟を図る。</li> <li>(補) 全体指導の中で理解が難しい児童に対して個別の指導を行う。</li> <li>(発) 既習学習を取り入れた文章問題の作成などを行うことによって、演算決定能力を養うようにする。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し上がり、繰り返し下がりありの筆算の仕方は概ね理解できたが、定着が十分とは言えなかった。</li> <li>○「水のかさ」「長さ」「時計」の単位の換算と計算の指導において、具体的操作を取り入れた授業の充実を図ったが、定着が十分とは言えない児童もいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少人数算数だけでなく、余剰時数の中で定着を図る。</li> <li>○身近な長さや水のかさに関心をもたせるために、児童が具体物を操作して概念を理解できるようにする。</li> <li>○日常とのつながりを意識させるように、授業時間外でも活用する場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(補) 少人数指導を生かし、苦手意識をもつ児童のクラスは15人程度とし、学習内容の定着を図る。</li> <li>(補) 量と測定に関しては、操作活動を増やしいろいろなものを測る経験をさせる。</li> <li>(発) 加法と減法の相互関係に着目して、いろいろな考え方を友達に分かるように説明し、児童同士が互いに高め合う場を設定する。</li> <li>(発) 量と測定に関しては水のかさ・長さを実際に測る際に、異なる単位で見当を付けたたり、結果をいろいろな単位で表現するように指導する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わり算」では、除法の意味理解や計算練習に時間がかかり、文章問題に取り組みさせる時間が十分確保できない。また、あまりを考える問題では、計算はできても答えにつける単位に誤りが見られる。</li> <li>○「大きい数のしくみ」では、数を読んだり書いたりする場面で、位を間違えて読んだり、空位の0を書き忘れたりすることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の中での「分ける」場面を想起させ、場面を絵や図に表す。題意を読み取らせ、単位を明確にする。</li> <li>○日常生活で見る大きな数を取り上げて、関心をもたせる。数を読んだり書いたり場面では、4桁ごとに線をひき、「一、十、百、千」の位取りを押さえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(補) 重点的な支援が必要な児童のクラスは10人程度とする。個々の苦手領域を把握し、個別指導を通して学習内容の定着を図る。特に繰り返し上がりのあるたし算や繰り返し下がりのあるひき算、かけ算九九の反復練習を行う。</li> <li>(発) 自分の考えを表現させることで学習内容の理解を深める。絵や図、式や言葉などを用い、根拠を明確にして書いたり話したりできるようにする。</li> </ul>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
4年	<p>○「大きい数のしくみ」では、日常生活ではなじみがない大きい数を扱うため、数の大きさが捉えさせにくい。位取り記数法のしくみやよさが児童に伝わりにくい。</p> <p>○「わり算の筆算」では、除数の桁数が増えても計算を進めるときの考え方や手順は同じであることから形式的な指導になりやすい。</p>	<p>○十進法に触れ、位取り板を使って、1つずつ数を入れていき、数が1つもない位には「0」を書くことを押さえる。数を書いたり読んだりすることを繰り返し、4桁ごとの読み方に慣れさせる。</p> <p>○十進法に触れ、わり算の場面では商の見当をつけさせ、部分積の意味を考えさせる。</p>	<p>(補)重点的な支援が必要な児童のクラスは15人程度で、学力向上支援講師とともにT Tで指導にあたる。個々の苦手領域を把握し、個別指導を通して学習内容の定着を図る。特に繰り返り上がりのあるたし算や繰り返り下がりのあるひき算、かけ算九九の反復練習を行う。</p> <p>(発)自分の考えを表現させることで学習内容の理解を深める。絵や図、式や言葉などを用い、根拠を明確にして書いたり話したりできるようにする。</p>
5年	<p>○「小数のわり算」では、除数を整数化した場合の小数点の移動やあまりの小数点の位置など、繰り返し指導していても誤りの事例が多い。</p> <p>○「合同な図形」では、辺の長さや角度のどれを使えば合同な図形が描けるのかについて、対応する辺・角・頂点が押さえられていない。</p> <p>○「約数と公約数」の学習では、その性質や求め方など、倍数と混乱してしまい誤ってしまうことが多い。</p>	<p>○「小数のわり算」では、除数と被除数を同数倍し、その場合の小数点の移動の法則を理解させる。また、検算によって計算結果の検証を行わせる。計算問題に繰り返し取り組ませる。</p> <p>○「合同な図形」の学習では、合同な図形のかき方の3パターンを押さえ、正しく描けているか一人ずつ確認する。</p> <p>○「約数と公約数」の学習では、数直線や図などを用いて倍数・約数を視覚化し指導し、理解できているかを確認しながら個別指導をしていく。</p>	<p>(補)重点的な支援が必要な児童のクラスは15人程度で、学力向上支援講師とともにT Tで指導にあたる。個々の苦手領域を把握し、個別指導を通して学習内容の定着を図る。特にかけ算やわり算の反復練習を行う。ワークシートに書き込ませるなど書き写す負担を軽減する。</p> <p>(発)初めて学習することについても既習内容を想起しながら、根拠をもって自分の考えを説明できるように指導する。児童同士が互いに深め合ったり刺激しあったりできる交流の時間を設ける。</p>
6年	<p>○「比」の学習では、比を利用して部分量や、全体量を求める方法が理解できず、乗除の数を逆にして立式してしまう児童が少なからずいる。</p> <p>○「分数のわり算」では、わる数の逆数をかける形式的な計算はできるが、文章題で1 mの重さや1 kgの長さを求める場合、どちらの数を除数にするのかで迷っている。</p>	<p>○場面を数直線で表すことを習慣化し部分量や全体量、割合を書き込んで考えるように指導する。</p> <p>○もとにする数でわることを押さえる。式の数に単位をつけて考えることで、何を求めようとしているのかを意識させる。</p>	<p>(補)支援が必要な児童のクラスは25人程度とする。個々の苦手領域を把握し、個別指導を通して学習内容の定着を図る。特にかけ算やわり算の反復練習を行う。ワークシートに書き込ませるなど書き写す負担を軽減する。</p> <p>(発)学習している事柄と関連のある身近なものを探し、初めて学習することについても既習内容を想起しながら、根拠をもって自分の考えを説明できるように指導する。児童同士が互いに深め合ったり刺激しあったりできる交流の時間を設ける。</p>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
3年	<p>○「植物の育ち方」では、観察記録の取り方の指導が必要である。</p> <p>○観察や実験などから得られた結果を基に考察し、表現することの指導が必要である。</p>	<p>○生活科の経験を生かすとともに、客観的な事実に基づく科学的なものの見方、考え方からの記述が十分できるように、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・似ていること、違うことを見比べる。</li> <li>・育ち方を振り返る。</li> </ul> <p>など、具体的な観察の観点を示し、指導する。</p> <p>○問題・予想を振り返らせ、それを基に結果から言えることを一人一人に考えさせたり、グループで話し合ったりする時間を設ける。考察からどうしてそう考えたのかをさらに投げかけ、説明させていく。</p>	<p>(補) 自然事象や生物環境など、実物を比較しながら理解できるようにさせる。</p> <p>(発) 身近なことから、考察したことと同じようなことがないか振り返らせ、考えを広めていく。</p>
4年	<p>○実験や観察などの視点の与え方を工夫する必要がある。</p> <p>○実験器具等の扱い方の指導が十分とは言えない。</p>	<p>○ノート指導を通して問題解決学習の過程を身に付けさせる。</p> <p>○個人または少人数の実験グループで、どの児童も器具を扱える機会を多くする。</p>	<p>(補) まとめの表現活動やものづくりの活動の中で、基礎的な内容を再確認させる。</p> <p>(発) 学んだことを生かしたおもちゃや道具作りを工夫させる。</p>
5年	<p>○実験・観察活動を重視し、実験観察の高める指導が必要である。</p> <p>○科学的な思考が育成できるよう、考えをできるようにする指導が必要である。</p>	<p>○実験器具や材料を十分に用意し、個人または少人数の実験グループなどで、どの児童も器具を扱える機会を多くする。</p> <p>○観察・実験の結果をグラフや表にまとめ、それらをもとに考察し根拠を示しながら自分の考えを説明する場面を設定する。</p>	<p>(補) 総合的な学習の時間と連携し、生命に対する畏敬の念や観察能力を高める。</p> <p>(発) 学んだ内容を身の回りの生活の場に関連させる自然の事物・現象についての理解を図っていく。</p>
6年	<p>○実験・観察活動を重視し、実験観察の高める指導が必要である。</p> <p>○科学的な思考が育成できるよう、考えをできるようにする指導が必要である。</p>	<p>○実験器具や材料を十分に用意し、個人または少人数の実験グループなどで、どの児童も器具を扱える機会を多くする。</p> <p>○観察・実験の結果をグラフや表にまとめ、それらをもとに考察し根拠を示しながら自分の考えを説明する場面を設定する。</p>	<p>(補) 総合的な学習の時間と連携し、生命に対する畏敬の念や観察能力を高める。</p> <p>(発) 学んだ内容を身の回りの生活の場に関連させる自然の事物・現象についての理解を図っていく。</p>

令和3年度 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画[生活科] 様式3 小3 4 練馬区立石神井小学校

学 年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
1年	<p>○活動に対する関心が高まらない児童や丁寧に表現できない児童がいる。より思いや願いを育む指導の工夫や楽しみながら丁寧に表現するための指導の工夫が必要である。</p>	<p>○スタートカリキュラムを含む入学当初の単元指導計画を改善し、段階的な指導を工夫し行う。</p> <p>○国語科の表現活動と連携し、思いや願いを実現することの楽しさや、表現することの楽しさを十分経験できるようにする。</p>	<p>(補)日常生活の中で、興味・関心を広げることが心がけ、話題にしたり動植物の世話をしたりすることを共有する機会を多く設ける。</p> <p>(発)気づきの質を高めるために、活動で得たよい気づきを教師が価値付けたり児童の作品を掲示する情報掲示板を設けたりする。</p>
2年	<p>○栽培や飼育活動では、興味関心の維持が難しい児童がいた。</p> <p>○栽培や飼育活動では、観察カードへの記入に大きな差が出る。</p>	<p>○意図的に時間を設定し、報告を行う。</p> <p>○記入する視点を確認してから記入させる。</p> <p>○視点に沿って書けている児童のカードを掲示する。</p>	<p>(補)国語・図工の学習時間に、具体的な方法を示す。</p> <p>(発)対象への気づきだけでなく自分自身の成長とつなげて考えるよう促す。またよい気づきを認め友達へ広めるよう助言する。</p>



学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
1年	○友達の声に合わせて、気持ちを込めて歌うことは難しい児童がいる。	○教科書の絵を見たり、身体表現を考えさせたりするなど曲のイメージを膨らませる活動を繰り返し取り入れる。	(補)歌詞や絵を表示したり、部分的に歌ったりする。 (発)グループに分かれて歌ったり聴いたりして、いろいろな歌い方に気付かせる。
2年	○元気に活動を楽しむが、リズムに合わせられないこともある。  ○キーボードの演奏については表現の仕方に苦手意識をもっている児童がいる。	○範唱や友達の演奏を聴いたり、歌詞やリズムに合わせた振り付けを考えたりする場面を繰り返し取り入れる。  ○個別指導と一斉指導を交互にとり入れ、音遊びや音づくりなどで楽しくキーボードを使った演奏や音を合わせる経験を増やす。	(補)範唱を聴かせたりグループで演奏させたりすることで、音色やリズムの違いに気付かせる。 (発)歌詞やリズムに合わせた振り付けを考えさせるなどして、楽しく取り組めるようにする。 (補)個別指導を中心とし、短いフレーズ毎の演奏を繰り返したり、音遊びの活動をたくさん取り入れたりする。 (発)友達の演奏を聴き、感想を伝え合ったり、簡単なリズム伴奏を付けたりする。
3年	○音楽を聴いて、「気付いたこと」を言ったり書いたりすることができるが、「感じたこと」を表現することが苦手な児童が多い。	○音楽の雰囲気を表す形容詞を例示し、その中から選んで言ったり書いたりしてもよいことにして指導する。	(補)音楽の雰囲気を身体で表現してから言語で表現する活動をする。 (発)「感じたこと」を適切に表現している場合に発表して学級で共有する。
4年	○感染予防のため、3年生の時にリコーダーの学習をほとんど行えなかった。	○長期休業中に家庭で吹く課題を出す。学校で吹いてよい状況になったら、毎時間演奏する時間を設け、タンギングに注目して指導する。	(補)タンギングを使った演奏と使わない演奏を聴き比べる学習を通じて音色の違いを感じさせる。 (発)運指に注目する日と、運指は簡単なものにしてタンギングに注目する日に分けて指導する。
5年	○音楽の記号の読み方や意味を覚えたが、楽曲の中で生かすことが苦手な児童がいる。	○部分に分けて、詳しく曲想を考えて表現の工夫をする学習を行う。	(補)拡大楽譜を用い、記号の確認を行う。 (発)記号を参考にして、自分なりの表現を工夫する。
6年	○音楽の構成や曲想の変化がわかりづらい児童がいる。	○全員で構成や変化を挙手で表すなどした後、グループ、個人へと繰り返して活動を行う。	(補)短い既習曲で構成を確認してから、長い楽曲を鑑賞する。 (発)曲想の変化を感じる原因となる要素にも注目し、根拠を考える活動を行う。

	<p>○感染予防で歌う時間が減ったため、自分の歌唱表現に自信がもてず、思いを生かした歌唱ができない児童がいる。</p>	<p>○歌える状況になったら、曲を短く分けて、その部分の強弱を工夫するなどして歌う回数を増やし、歌唱への自信をもたせる。</p>	<p>(補) 歌詞や旋律に込められた思いを考えたり感じたりして話し合う。 (発) 体育館で歌う機会に、空間に響く声を聴き合って表現の工夫をする。</p>
--	---	--	--

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
1年	<p>○造形活動を楽しむことができたが、素材や材料の特性を生かして自分の発想を表現できたが、交流させることが不十分であった。</p> <p>○描画材や用具等の扱いを知り、思いを表現させることが必要である。</p>	<p>○造形遊びの活動を行う前に素材や材料を触ったり、動かしたりして、その感覚を楽しませ、身体感覚を働かせる経験をさせる。</p> <p>○描画材や用具の特徴、扱い方を知らせ、思いを自由に表現させる。</p>	<p>(補) 用具・材料の扱いのポイントの掲示を工夫し、事前に指導をする。</p> <p>(発) つくったものをお互いに鑑賞し、交流する機会を増やし、材料の組み合わせやいろいろな発想・技法に気付いて、思いを伝えられるようにする。</p>
2年	<p>○用具や材料の特性を生かして、自分の発想を工夫して表現させることが不十分であった。</p> <p>○色の特性を知り、色の濃淡を楽しんで表現することが不十分だった。</p> <p>○道具の取り扱いなど、技能面に大きな差があった。</p>	<p>○作品について、工夫した点を伝えたり、友達の良いところを伝えたりする場を設定する。</p> <p>○作品作りに入る前に、用具・材料の扱いのポイントや使い方による表現の違いを、十分な時間を確保し、指導する。</p>	<p>(補) 全体で用具や材料の扱いについて十分に指導し、さらに個々の児童に用具や材料を生かした表現の仕方を指導する。</p> <p>(発) 用具や材料にたくさん触れさせ、想像したことを具体的に表現できるようにする。</p>
3年	<p>○造形活動を通して身体感覚を働かせ、自分なりのものの見方や考え方に、自信をもって表現させる必要がある。</p> <p>○描画材や用具・材料の扱いに慣れさせ、特性を生かした表現をさせることが必要である。</p>	<p>○身体感覚を働かせ、感性をはぐくむような題材を提示する。</p> <p>○イメージを広げられるような言葉掛けや掲示物の工夫をする。</p> <p>○事前の段階で用具・材料の扱いのポイントを、十分に指導しておく。</p>	<p>(補) 互いの造形表現を見合う機会を設け、そのよさや違いを生かし合う。</p> <p>(発) 試したことや新しい発想を積極的に認め、より自分らしさを表現できるようにする。</p> <p>(補) 用具・材料などの取り扱い方法のポイントを提示する。</p> <p>(発) 用具・材料の発展的な扱い方も取り入れられるように支援する。</p>

4年	<p>○造形活動を通して身体感覚を働かせ、自分なりのものの見方や考え方に自信をもって表現させる必要がある。</p> <p>○見通しをもった表現活動ができるよう考えさせる必要がある。</p>	<p>○身体感覚を働かせ、感性を育むような題材を提示する。</p> <p>○イメージを広げられるような言葉かけや掲示物の工夫をする。</p> <p>○いつまでに、どこまで出来ればよいのか、目標を立てさせる。</p>	<p>(補)互いの造形表現を見合う機会を設け、そのよさや違いを生かし合う。</p> <p>(発)試したことや新しい発想を積極的に認め、より自分らしさを表現できるようにする。</p> <p>(補)参考作品を準備して全体像を直観的に捉えられるよう計画する。</p> <p>(発)学んだことを応用して造形活動を広げられるような教材を準備する。</p>
5年	<p>○課題から離れずに、自分なりの構想を広げたり、表現方法を楽しんで工夫したり出来るようにする必要がある。</p> <p>○材料や用具の特徴を生かして、表現に適した方法などを組み合わせて表すことができるようにする必要がある。</p>	<p>○課題に対する適切な例事物を事前に作成する。</p> <p>○いつまでに、どこまで出来ればよいのか、目標を立てさせる。</p> <p>○様々な材料や用具を提示し、自ら選び、組み合わせて造形活動ができるよう準備する。</p>	<p>(補)イメージを広げられる参考作品、芸術作品を提示する。</p> <p>(発)学んだことを応用して造形活動を広げられるような教材を準備する。</p> <p>(補)材料や用具の特徴を生かした参考事例を提示する。</p> <p>(発)興味をもって造形活動が広げられるような教材を準備する。</p>
6年	<p>○材料や用具の特徴を生かして、表現に適した方法などを組み合わせて表すことができるようにする必要がある。</p> <p>○自分の思いをもち、それが作品に自信をもって反映させられるようにする必要がある。</p>	<p>○様々な材料や用具を提示し、自ら選び、組み合わせて造形活動ができるよう準備する。</p> <p>○自信をもって活動できるよう声かけをする。</p> <p>○お互いに認め合う活動を取り入れて、自分を出せる雰囲気づくりをする。</p>	<p>(補)材料や用具の特徴を生かした参考事例を提示する。</p> <p>(発)さまざまな材料から自ら選び使うことのできる場を用意する。</p> <p>(補)良いと思うものを取り入れて作品作りに生かすよう、支援する。</p> <p>(発)芸術作品などのよさを見つけ、自分ならどのような表現をするかさらに深めていくよう指導する。</p>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
5年	<p>○手縫いの方法やミシンの使い方、調理の手順、包丁やガスコンロの使い方など、知識・理解を継続的に定着させる指導が課題である。</p> <p>○家庭生活への関心をもたせ、家族の一員として生活を工夫しようとする意欲を高める指導の視点が必要である。</p>	<p>○見やすい資料を提示し、体験的な学習・活動を多く取り入れることで理解を推進する。</p> <p>○習得したことを活用できるように指導計画を工夫することで、基礎的な知識や技能が定着できるようにする。</p> <p>○家庭の協力を得て、学習したことを日常生活で実践できるようにする。また、授業の中で「家庭生活では何ができるのか」という問いかけを行う。</p>	<p>(補)個人差が出やすい裁縫の実習では、児童同士で教え合い、授業だけにとどまらずに個別指導の機会をもつようにする。</p> <p>(補)映像資料を活用し、児童が繰り返し手順を確かめられるようにする。</p> <p>(発)学習したことを日常生活に進んで生かした経験を発表する場を設定し、他の児童の意欲につなげる。長期休業は、学習したことを実践できる場と捉え、積極的な活動を促す。</p>
6年	<p>○布製品の製作や調理、洗濯などの実習を通して技術は向上しているが、責任をもって最後まで片付けること、丁寧に取り組むことなど根気強く意欲的に学習することが必要な児童も見られる。</p> <p>○家庭生活への関心をもたせ、学んだことを日常生活に生かそうとする意識や意欲を高める指導が必要である。</p>	<p>○習得したことを活用できるように指導計画を工夫することで、知識や技能が定着できるようにする。</p> <p>○製作や調理、洗濯の実習では、計画から実践までをしっかりとまとめ、学習を振り返り、成果を認めることを繰り返し行う。</p> <p>○児童の実態に合わせた課題を選択させたり、グループで選択させたりする問題解決的な学習を取り入れる。</p>	<p>(補)児童同士で教え合ったり、評価し合ったりする活動を取り入れていく。</p> <p>(発)長期休業中など、家庭で実践する機会を設定し、家族の一員としての意欲を高める。</p> <p>(発)長期休業中の課題や自由研究等を通して、日常生活に進んで生かしたことを発表する場を設定し、他の児童の意欲につなげる。</p>

令和3年度 指導方法の課題分析と具体的な授業改善策および補充指導等の計画 [体育科] 様式3 小34 練馬区立石神井小学校

学 年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
1年	○鉄棒やジャングルジム、雲梯などの経験が少ないため、握ったり、ぶら下がったり、逆さになることに課題が見られる。	○現在、鉄棒やジャングルジム、雲梯が校内にないので、石神井公園へ行くなどして、指導をしていく。	(補)固定遊具等に触れる機会を増やすようにする。 (発)めあてを考えさせたり、友達の動きを見させたり、振り返りをさせたりする。
2年	○すべての動きにおいて、経験不足が見られる。	○場の工夫をする。 ○個人のめあてを書かせたり、児童同士の励まし合いをカードに記録させたりする。 ○単元が終わった後、振り返りをする。	(補)自分で考えた動きや友達の動きを共有して挑戦する楽しさを教える。 (発)よりよい動きをつくるこつ等を言語化し友達に伝えたり、動きを児童同士で励まし合ったり、認め合ったりする場を設定する。
3年	○意欲的に運動している児童が多いが、技能を高めるための工夫や繰り返しの取組、何の運動か意識させる必要がある。 ○友達同士やチーム内での伝え合い(アドバイス)が、できないことが多い。	○補助運動や場の工夫を行うことにより、楽しみながら練習できるようにする。 ○チームで作戦を立てたり見合ったり、基本となる動きのポイントを伝える機会を授業に取り入れる。	(補)友達同士での教え合い、励まし合いの機会を作り、次時以降に生かせるようにしていく。 (発)練習カードや学習カードを使用し、学び合いの場の設定をする。また、カードの工夫により、よりよい動きや学び方を身に付けることができるようにする。
4年	○友達の良さを見付けることはできても上手く伝え合ったり、認め合ったりできていない。 ○陸上運動、器械運動については、個人差が大きく見られる。	○友達の良さを見付けて伝え合う時間を作る。また、言葉掛けの例などを示して、言葉掛けをしやすくする。 ○動きごとに練習の場を作り、スモールステップで練習ができるようにする。	(補)チームで練習をしていけるようにし、友達と教え合ったり、助け合ったりできる時間を十分にとるようにする。 (発)視覚的に自身の動きを捉えられるよう、ICTを活用し、動きの確認を行い、教え合いの場に広がりをもたせる。
5年	○陸上運動、器械運動、ボール運動については、活動に個人差が見られる。 ○身体の柔軟性を高める指導が課題である。	○陸上運動、器械運動、ボール運動では、トリオ学習やチーム学習でお互いに学ぶ場面を増やす。また学習カードを活用し、一人一人に1単位時間の授業のめあてをもたせる。 ○体づくり運動では、体力について保健とも関連しながら考えられるようにして体力の質的な高まりと量的な高まりが味わえるようにする。	(補)友達同士で伝え合ったり励まし合ったりする機会を増やす。2年間を見通して学習計画を立て、指導課題が効率よく解決できるようにする。 (発)自分の動きを確認したり、理想の動きや運動場面のイメージを広げたりできるように、学習カードを工夫したりICTを活用したりして、視覚的にわかるようにする。
6年	○ボール運動に対する意欲に男女で差がある。 ○陸上運動や水泳など個人で行う運動では、グループでの関わり合いが生まれにくく、どんな言葉かけをしていいのかわからない児童も多い。 ○投げる動作がぎこちない。	○オリエンテーションで事前アンケートの事実を示し、全員が楽しめるボール運動を児童と計画する。 ○運動の場と学習過程を工夫し、チームで学習を進められるようにするとともに、アドバイスをし合う環境を整える。 ○準備運動で毎時間投げる動作を行う。	(補)一単位時間の学習過程を示し学習の見通しをもたせる。 (補)チームで行うミーティングの時間を増やし、みんなで楽しめるようなルールを練り上げる。 (発)ICT機器を活用し、自分の運動場面やチームの運動場面を撮影し、技能の向上や作戦を立てることに役立てる。



学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに学ぶ単語が、一つの単元でたくさんあるため、覚えきれなくなっている。</li> <li>・様々な英語表現が多く出てくるため、最初は楽しく発話できるが、時間が進むにつれて発話のパターンが増えていかない。</li> <li>・英語に対する知識量や慣れによって、学習への取組の差が表れている。</li> <li>・外国語の単語や表現を覚えられず、学力差が大きく出ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語や表現を繰り返し練習し、慣れるように意識して指導する。</li> <li>・ウォームアップの時間を活用し表現に慣れ親しめるよう毎授業で行う。</li> <li>・ゲームや歌を活用して楽しみながら単語や表現に慣れさせる。</li> <li>・楽しみながら書けるように、活動内容やワークシートの工夫をする。</li> </ul>	<p>(補) 単語の意味やスペルを書いた絵カードを使用して繰り返し練習をする。</p> <p>(発) 単元で学習した会話表現や単語を使ってコミュニケーションをとる場面を設定し、楽しく活動できる単元を設定する。</p>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習単語と新出単語、英語表現も多種多様な表現が出てくるため、覚えきれなくなっている。</li> <li>・様々な英語表現が多く出てくるため、覚えきれなくなっている。</li> <li>・英語に対する知識量や慣れによって、学習への取り組みの差が表れている。</li> <li>・積み重ねで英語に対する慣れて楽しくなる場合と、苦手意識をもってしまう場合がみられる。</li> <li>・外国語の単語や表現を覚えられず、学力差が大きく出ている。</li> <li>・英語、アルファベットなど書くことが苦しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語や表現を繰り返し練習し、慣れるように意識して指導する。(授業の流れをある程度同じようにして指導する)</li> <li>・表情やジェスチャー、絵カードなどを使って言葉以外でも伝えられることを指導する。</li> <li>・ウォームアップの時間を活用し表現に慣れ親しめるよう毎授業で行う。</li> <li>・ゲームや歌を活用して楽しみながら単語や表現に慣れさせる。</li> <li>・楽しみながら書くことができるよう、ワークシートの工夫をする。</li> </ul>	<p>(補) 黒板やモニターに単語や会話表現の絵カードや映像を見ながら練習を繰り返す。</p> <p>(補) 英語表現の教室掲示を工夫する。</p> <p>(発) ゲームでは多くの人数にインタビューしたり、発表したりできる場面を設定していく。</p>



学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
3年	<p>○意欲的にコミュニケーション活動に参加している児童もいるが、授業内で全く発言しない児童もおり、全ての児童がアウトプットして積極的に会話を楽しんでいる状況ではない。</p> <p>○これまでの外国語活動で触れてきた表現を利用した学習内容を進めるようにしているが、全ての児童が、学習した言語を自ら使ってみようとする意識が定着しているわけではない。</p>	<p>○全体、グループ、ペアなど、様々なアウトプットの方法を取り、言ってみようという意識を持たせる。</p> <p>○年間を通して、導入や終末で毎回同じ表現を取り扱い、慣れた表現を増やすことで抵抗なく、発言しようとする意識を持たせる。</p>	<p>(補) 外国語活動の時間以外でも、外国語を取りあげて紹介する時間を取り入れたり、遊びの中で外国語に触れたりしながら、より親しみを持てるようにする。</p>
4年	<p>○積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童がいる一方、苦手意識や恥ずかしさから発言できない児童もいる。</p> <p>○使えるようになった外国語で交流させるために、様々な活動を取り入れているが、週に1回の授業では、内容を積み重ねることが難しく、習熟度の差が広がっている。</p>	<p>○自分が外国語を話せた経験を自信につなげるために積極的に前向きな言葉をかける。</p> <p>○日常的に外国語を意識させ、いつでも復習できるような環境を整える。</p>	<p>(補) 日常的に学校にいるALTを活用して積極的にコミュニケーションをとるように促す。</p>